

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3790100162
法人名	アイコーポレーション株式会社
事業所名	グループホームあい
所在地	香川県高松市川部町1300番地1 (電話) 087-886-5558

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年12月3日	評価決定日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(19年12月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 6月 15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	18人 常勤 11人、非常勤 7人、常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	21,000円+実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	17名	男性 6名	女性 11名
要介護1	4名	要介護2	8名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	1名
年齢	平均 82歳	最低 59歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ツゲ医院、高松市民病院、オサカ病院、今瀧歯科医院、曾我部外科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋平屋建ての住まいは木造風で、緑豊かな田園の落ち着いた静かな環境と合っている。ホームすぐ前の公共運動公園では、高齢者から子供までの交流の場を有効に活用できている。玄関のドアはオープンで、利用者は家庭的で自由な雰囲気の中で過ごさせている。
ホームの理念「愛、誠」の本質である利用者が望まれることを推し量り、安らげるよう、一人ひとりの個性を尊重した日常支援が実践できている。また、運営推進会議の取り組みから地域の交流が増えており、地域のイベントへの参加、近隣の方々が畑のボランティアの実施、学生や住民の通行時の挨拶や声かけ、野菜等のいただき物などに広がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、自己評価、外部評価ともに運営理念の地域への啓発、ケアサービス、運営体制の分野でいくつかの改善課題があったが、評価を活かすために、職員が共有して解決できることから取り組み、運営推進会議での啓発活動、地域との交流、内部研修の充実、ゴミの分別とリサイクルで自然食品による健康管理等の取り組みがされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに管理者と職員全員で分担し、話し合いで前向きに取り組み、地域密着型サービスの啓発と地域とのつき合い、地域での役割、業務日誌や職員間の申し送り、介護計画等の日常支援の取り組みの実践が見られる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員は、家族、利用者、地区自治会、婦人会、地域の方、市会議員、市職員等で、地域の中でのホームの存在を強く意思表示している。グループホームでの取り組みの紹介と課題のアドバイス、食事の工夫や自然食の紹介等を共有して協力をいただき、地域交流への歩みを進めている。地域への啓発と市との連携が今後も推進していく課題である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の「あいだより」に健康状態やホームでの様子、金銭出納を報告している。また、家族の面会時には管理者またはケアマネージャーが面接をして、ホームでの様子や健康状態を報告し、家族の要望や意見を聴いている。職員も家族とのコミュニケーションに配慮し、得られた意見や情報は記録をして、管理者、職員間で話し合い共有し、支援に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会、婦人会、近隣等への働きかけは常に行っており、ホームの理解が得られてきており、参加できる行事や婦人会によるお茶会、畑のボランティア等の訪問、散歩時の声かけ、学生と挨拶等が日常になってきている。また、運営推進会議での議題としているいろいろな面から取りあげて、常に地域の理解を得るよう努めている。さらに、地域での支え合い、連携の推進への取り組みが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームで作らあげた理念であり、事業者の意義、役割は理解されているが、地域密着型サービスの意義、役割が理解され、地域生活の継続を支えるための支援を理念に置いた、事業所独自の言葉への置き換えがされていない。	○	今までの理念に加えて、「地域の中でその人らしく生活することを支える」ことを、職員全体で考えると共に、自分たちの言葉で分かりやすく、具体的なものを作っていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有されており、職員一人ひとりが意識できているが、利用者一人ひとりに理念が反映するよう、日々の話し合いや確認のなかで具体的な言葉に理念を掘り下げて、具体的なケアの意見統一と実践への取り組みが十分でない。	○	あいコーポレーションとして再スタートしたところであり、地域密着型サービスの理念を自分たちの言葉で表せるよう、職員全員で取り組むことが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や婦人会、近隣等への働きかけにより、行事参加や畑のボランティア訪問、ホーム前の公園での住民や子ども達との交流等が増えてきている。また、鍵をかけない開かれたホームの玄関先で、利用者が腰かけたり、近隣者が立ち寄って声かけをしる等、付き合いができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、職員全員に意義と目的を伝えて、全員で取り組み、サービスの向上に努めている。外部評価の結果は運営推進会議において報告し、具体的に解決できるところから実践につなげるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議は、地域密着型の事業所の理解と支援をもらい、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努めている。委員は市の担当者、市会議員、地区組織の長や近隣者、家族、利用者等で、地域の中のホームのあり方、支援等について相談し、共有できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議で事業所の実情やケアサービスの取り組み等について、いろいろと意見交換し、指導や情報を得ているが、それ以外の行き来の機会がほとんどない。	○	市担当者へ、事業所から実情やサービスの取り組み等を伝え、相談や助言が得られる関係づくりが期待される。地域包括支援センターや利用者の住所の担当地区への関わりを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、「グループホームあい」だよりを作成し、写真や金銭管理状況報告、健康状態を併せて報告している。また、面会時には必ず、管理者、ケアマネジャー、職員が、家族に暮らしぶりを報告しているが、家族との繋がりを深めるために、ホームでの暮らしぶりを状況報告する機会の工夫が少ない。	○	毎月の便りを活用して、利用者の状況を担当者やケアマネジャーで役割分担し、ホットな報告により繋がりが深められるように期待したい。また、家族調整の役割がある利用者家族への関わりは、毎月の便り等を活用し、職員全体での関わりを話し合っ取り組むことを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関横に苦情箱の設置や面会時に、家族から話を得られる雰囲気づくりに配慮している。家族等から得られた情報、意見は記録をして、職員へ伝達し、話し合い、共有して取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員と利用者の馴染みの関係を保てるように、職員の異動には最小限度に押さえるよう努力している。また、利用者がユニット間を気軽に行き来できたり、夜勤を一人の職員で実施する体制等で、職員と利用者の馴染みの関係は保たれている。やむを得ない場合は、時期や引き継ぎの面での配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、代表者と職員全員の定例の報告会は、職員育成の機会となっている。職員の外部研修は計画的な受講の奨励と、希望者が参加できるように配慮されており、内部研修は3か月ごとに講師を招いて計画的な研修計画ができており、資格取得のための支援等もあり、職員が意欲的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は同業者との交流があり、職員も個人的な交流が少しづつ見られている。また、他ホームとの合同行事として、花見などを実施する等、交流を通じたサービスの向上に工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や医療機関との話し合いや入居前の面談、関わりに努め、訪問や見学等で、家族と相談しながら馴染めるよう取り組んでいる。緊急や早急な入居でサービスの開始がされる時は、家族や馴染みの関係者の協力を得て、利用者が安心感を持てるような対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや不安、苦しみ、喜びなどを共に感じられるように、お互いに共有できるよう支援できている。日本のことわざや昔話、料理等を教えてもらいながら、一人ひとりの言動から分かることを確認し、共に過ごし、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望は、日々の会話や行動、表情からの把握に努め、職員間で共有し、利用者に確認したり、家族を交えて検討する等、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりのケア計画は、ユニットごとに全員で意見を出し、ケアマネジャーが家族や利用者、主治医に同意を得て作成している。また、フェイスシートで日常支援を確認し、気づきやアイデアをカンファレンスで共有して、個別の具体的な計画が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの定期的な見直しのほか、利用者の状態変化や本人、家族の要望に応じた見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院や診療の付き添い、外出、買い物、墓参り等の必要な支援に、柔軟に対応するよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院、医院、歯科医院等と連携して、適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて、通院、往診等の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意向に添えるように、かかりつけ医との連携に取り組んでいる。看取りの対応は、看取りが近くなると看護師が中心となり、利用者、家族との話し合いを持ち、希望に添えるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけ等は利用者の誇りやプライバシーを大切にされた対応であり、誘導や支援の対応は、常に管理者からの指導が徹底しており、個人情報の保護の理解が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日のスケジュールの中、利用者が自分らしく過ごせるように、職員の見守りと工夫の中で自由に過ごされている。自分の部屋にいる時間は少なく、ユニット間の自由な行き来や交流を、楽しみながら生活できている様子がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材は利用者と考え、畑で取れた物を利用して、季節を味わう等の食事を楽しんでいる。材料切りから調理、配膳、片付け等の一連の流れに、利用者がそれぞれの役割に応じて参加し、共同生活を活かした楽しみを職員と共有でき、大切な支援の一つとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の楽しみであり、週3日の日中の入浴に、利用者に声かけをして一人ひとりの希望に合わせている。夜間の入浴希望者へは、職員の勤務体制の工夫により、対応に取り組めるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくり、畑仕事、将棋、歌、ことわざ、散歩、ドライブ、買い物等、利用者の楽しみごとや、暮らしの中で生活歴や力を活かした役割等には、お願いや感謝の言葉を添えて、一人ひとりにあった支援がうかがえる。特に、ゴミの分別で生活の質をあげ、自然食の野菜作りの取り組みには、利用者の協力が大きく得られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先でのベンチや庭の散策等の気分転換や、季節を体感する工夫がされており、ホーム前の公園への散歩、移動図書館利用、買い物等の外出への参加は、楽しみにしている様子がうかがえる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけず、ドアが開放されており、利用者は職員の見守りの中で穏やかに過ごせている。一人ひとりの気分や状況をきめ細かくキャッチして、予見した見守りと安全面に配慮した支援で、安心した暮らしの支援がうかがえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練、避難通路の確認等を実施している。ホームだけの訓練から、地域の協力を得られるような働きかけが十分でない。	○	マニュアルに基づいた避難訓練等は実施できているが、地域の協力体制等については、運営推進会議等の中で、自治会や婦人会、近隣等の協力体勢の構築が期待される。また、避難場所が遠いので、すぐ近くのクリーンセンターを使用できるように関係者へ働きかける等、災害に備えた早急な対応が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分、排泄パターン等の観察や表情、体重等の観察とチェック等の記録、管理はできており、看護師と職員全員で共有している。また、利用者の体調の変化には、早期に対応できる支援が見られる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有空間は木調風の中、落ち着いた空間となっており、清潔で整頓され、シンプルで居心地のよい工夫がされている。光と風が十分で、自然の木々や風景が身近にあり、安心して暮らせる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた日用品が持ち込まれ、生活感のある各自自由な個室となっている。入口の暖簾は好みの色を選び、入口の表札と同じく個別性を保ち、居室としての存在を支援している様子がうかがえる。		